



就任2年目を迎えて

秋田県高等学校野球連盟
会長 尾形 徳 昭

この4月に高野連会長に就任して2年目を迎えましたが、新型コロナウイルスの感染は1年以上経ってもその勢いは衰えず、今だ終息の時期が見通せない状況にあります。令和3年度の事業計画立案にあたっては、この状況を踏まえつつも例年通りの事業が遂行できるよう医師会や教育委員会、連盟役員ほか関係各位の御意見を参考にしながら作業を進めて参りました。お陰様で4月23日に開催致しました今年度第1回評議員・理事会では、提案したすべての議案について了承を得ましたので、早速実施に向け、準備に取りかかりました。

会議場で議長を務めていて強く感じたことは、「感染防止と大会運営（有観客）が両立できるだろうか」という不安感でした。この多くの方が抱えている不安感は、大会を運営する理事の先生方も同様だったと思いますが、先生方にはそれ以上に球児たちの為に大会は必ず成功させるぞという意気込みが感じられました。とても頼もしかったです。

昨年は得体の知れないウイルスであったため、春季はすべての大会を中止しました。しかし、夏の代替大会以降は、入場者を制限しながら順次開催（原則無観客）して参りました。秋季の東北大会に至っては、人数制限を前提とした有観客での開催でありました（宮城県）。このような経験に加え、日本高野連や秋田県医師会からの御教示も受け、少しずつではありますが、コロナ禍での高校野球大会の運営の方法がマニュアル化されてきました。今年5月1日から、中央地区を皮切りに春季の各地区大会が始まりました。健康観察表の提出、マスクの着用、手指消毒の徹底、三密の回避、大きな声を発しないなど、「新しい大会運営方式」が徐々に定着してきました。今後も絶対に感染者を出さぬよう、緊張感をもって大会運営にあたって参りたいと思います。

2年ぶりの春季大会の開催となった各地区の球場には、この時を待ちわびたかのように多くの皆様に来場いただいております。その光景に嬉しさと同時に關心させられたことがあります。それは、来場された方々のマナーが実にいいということです。マスクを忘れる方はほとんどいらっしゃいませんし、健康観察表も持参されるか、その場でしっかりと書いていただいております。検温や手指の消毒も励行され、多少の混雑にもソーシャルディスタンスを保った状態で静かにお待ちいただくなど、本当にありがたく感じております。試合中も歓喜の時も激励の時も大きな声を慎み、皆大きな拍手で対応していただいております。選手たちはこの拍手に励まされ、喜びが何倍にも膨らみ、それが自信にもなっているように感じます。高校野球が教育の一環である以上、「球場やグラウンドは、校舎を離れた教室」だと思っています。その教室で多くの方々から御支援いただいておりますことを改めて感謝申し上げます。

結びに、この先新型コロナウイルスの感染状況は全く予断を許さない状況にあります。どのような状況になろうとも高校球児や関係者各位、御支援いただいております観客の皆様のご健康、安全を最優先に大会の運営を行って参りますので、今後とも御支援、御協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

2021年5月